

2016年度 委員会事業報告書

担当副理事長 山田嘉一
まちの未来創造委員会 委員長 西尾洋昭

1. 委員会開催日 (13回)

1/20	2/17	3/14	4/18	5/19	6/2	7/22
8/10	8/16	9/29	10/26	11/24	12/14	

2. 事業報告

- | | |
|----------------------|----------|
| ① 例会の担当 | 6月25日 |
| ② J Cデー (8月例会) の担当 | 8月27日 |
| ③ 愛知ブロック協議会名古屋会議の担当 | 2月11日 |
| ④ 日本J C全国大会の担当【広島】 | 10月6日～9日 |
| ⑤ 総会・例会・各種事業の記録保管の担当 | 通年 |
| ⑥ LOMのホームページ運営の担当 | 通年 |
| ⑦ 防災に関する担当 | 通年 |
| ⑧ 新入会員の拡大 | 通年 |
| ⑨ 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

西尾洋昭 浅井治行 平野貴彦 藤田哲朗 奥田晃史 井田雄也 中川 翼

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、海部津島の市民が地域と世代を超えてふれあい関わりながらまちに関心を持っていただき、人とひとが結びついていくことで、まちへの愛情を育んでもらうことを目的に活動をしてまいりました。

そこでまず、市民同士が互いに関心を持ち協力し合える新たな関係を築くために、まちの魅力を共有する必要があると考えました。魅力の探求から取り組み、まちの中には様々なものがあることに気づけました。しかし、答えを見出すことが遅かったため、市民と関わる行動が遅れてしまい、それが後々の人の巻き込みに影響を及ぼしました。より早く見出すためには、委員会だけで答えを見出すのではなく、多くの地域の方々と関わりながらヒアリングをして学んでいく必要があったと考え申し送りいたします。ご当地キャラは、市民に馴染みがあり、まちを知るきっかけとなり魅力を共有することに効果的であったと考えます。さらに魅力に対しての理解を深めるために、事前に委員会と各参加団体とで話し合い考える機会も必要であったと考え申し送りいたします。市民の方と取り組んだあまつしまスポーツは、初対面の人同士が知り合い、新たな関係を築く一助になりましたが、市民の方々がお互いのことに強く関心を持ち、今後協力し合える関係には至りませんでした。互いのことを知り名前を呼び合える関係を作れるようコミュニケーションを取れる時間を設けることや、接触機会を増やし交流が図れるよう公開委員会を行い事前に会って話す時間を設けることで関係を深めることができたと考え申し送りいたします。

6月例会からJ Cデー (8月例会) にかけて、委員会メンバーと協力団体とは打合せを進めていく中で関係を深めていくことができ、誰もがすぐ覚えられて気軽に行なえるあまつしま体操を通して、人とひとが楽しく関わりながら、まちへの関心を持っていただけました。また、幅広い世代の方々に協力してもらい事業

を行なえたことで、一般市民の方々に広く関わる機会を設けることができました。事前の連絡協議会を開催する予定を立てていたのにも関わらず、協力団体全てが集まれる日程で考えていたため予定通り行うことが出来ず、LOMメンバーや協力団体同士の関わりを強めて全体が結びついて元気溢れる場を創り出すところまでに至らなかったために、事業の中で人とひとを巻き込んで次々と関わらせ結びつけていく運動発信の効果が弱かったと反省いたします。事前の連絡協議会の日程を決めて開催し、委員会の想いをしっかり伝え、団体同士が関わる機会を設けることで、各自設営側の企画運営面と広報面の当事者意識を持っていただくことに繋がったと考えますので申し送りいたします。一般の方への広報活動として、LOMメンバーや協力団体にお力添えをしてもらい多くの方へチラシを配布することができましたが、LOMのホームページとフェイスブックを担当している委員会であるのにも関わらず、例会当日に向けての更新頻度が少なく周りの機運を徐々に高めていくことができませんでした。フェイスブックの更新を委員会メンバーで協力し合い、協力団体やステージ参加者との打ち合わせや、その他企画に関して行動した時は必ず更新するという決め事を委員会で作り随時行うべきであったと考え申し送りいたします。

議案を上程するにあたり、計画が弱く全てが後手になってしまいました。そのようにならないために、上程スケジュールを早い段階から計画し議案の作成に取り掛かり審議をいただくことが必要であったと考え申し送りいたします。

防災を担当する委員会として4月16日に起こった熊本地震大震災の被災地に対して、4日に渡る支援金募金活動を大勢のLOMメンバーに協力していただき行うことができました。被災地のためにLOMメンバーそれぞれが当事者意識を持ち集まり行動を起こし、フェイスブックで市民の方に情報発信ができたことで多くの支援金を募ることができました。被災地を想い、震災が自分事であると捉えたことも多くの支援金に繋がったと考えます。防災担当としては、自然災害などの有事の際、正副スタッフと密に連絡を取り、日本青年会議所や愛知ブロック協議会からの情報を確認し、すぐに対応できる体制を整えていくことが大切であると考え申し送りいたします。

1年を通して、市民の方々とあまつしま体操の普及活動等で関わりまちへの郷土愛を醸成することができました。このまちの明るい未来のためには、海部津島で活動している我々青年会議所が率先して市民と関わり関係を築き、市民同士のパイプ役となり、新たな関わりを生み出す行動を起こし結びつけていくことが必要であると考えますので申し送りいたします。

以上を反省点及び申し送り事項とさせていただきます。

5. 委員長所見

海部津島市民の郷土愛を醸成するために、まずは人とひとのつながりを築いていくことが必要であると考え1年間活動をしてまいりました。人とひとのつながりは、互いに名前を知っているだけの関係から、協働して行動ができる間柄まで幅広いものがございます。いかに市民が海部津島に対する関心を高め、人とひとを関わらすことができるのか委員長の拜命を受けてからずっと考え行動をしてまいりました。そこで、海部津島の人とひとのつながりを築いていくためには、まずは自分自身が海部津島の人々と関わるのが大事であり、関わる中で周りを巻き込んでいく行動が必要であることに気づかされました。自らが動いて委員会メンバーを巻き込み、そこからLOMメンバーを巻き込んでいき、まちに対しての想いを共有できる市民を巻き込んで行く。同じ想いをもった者同士がふれあい関わりながら行動していくことが海部津島の人とひとを結びつける第1歩でありました。しかし、方向性が定まってから動こうと考えていたために自らの率先した行動が遅く広い範囲でのつながりを構築することができなかつたことを反省しております。けれども出遅れはございましたが、私自身1年間を通じて協力団体の方々やステージ関係者、あまつしま体操を監修していただいた中京大学の湯浅景元教授など本当に数多くの方と出会い関わらせてもらったことで、まちに対しての愛情を高めさせていただきました。そのような多くの方々にお会いをさせていただき、まちの未来に向け

て人とひとのつながりを構築していくことの大切さを知ることができました。また、自分の計画作りの甘さや決断力の遅さに気づかされた1年でもありました。そのような学びと成長の機会を与えてくださいました篠田正洋理事長に改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

そして、中京大学の湯浅景元教授、和光理奈先生、あまつしま体操動画撮影にご協力いただきました市民の皆様、動画の編集をしていただきました西尾張シーエーティーヴィ様、我々の活動にご協力賜り誠にありがとうございました。協力団体の皆様におかれましては、6月例会からJCデー（8月例会）、その後のあまつしま体操普及活動へのお力添えをしていただき、また自分たちの活動の中へ委員会考案のあまつしまスポーツの引き継ぎやあまつしま体操の取り組みをしていただき誠にありがとうございました。LOMのメンバーの皆様におかれましても、まちの未来創造委員会の活動にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様のお力添えがあったからこそ1年の活動を行うことができたこと感謝いたします。最後に、どんな時にも一緒にいてくれて力となり共に歩んできた浅井治行副委員長をはじめとする委員会メンバーの皆さまには伝えても伝えきれないくらいの感謝を申し上げ、委員長所見とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	60,630	事業費	60,630	⑤	630	⑤	630
				⑥	60,000	⑥	60,000
合 計	60,630	合 計	60,630	合 計	60,630	合 計	60,630